

明治五^{壬申}七月

集議院
御中

高智縣貫屬士族

西森真太郎

文

七十四番

報天社之儀^ニ付再三建言

十九
七拾四号

岡田明義

先達の大議官出會之節政府ヨリ
難令々改申閉置之如將又前同様
達白而三及之得九々之採用

経済課

先般報天社創業建言書中海内惣人負ヨリ
四季各一日之休日ヲ減シ御冥加トシテ向
後五箇年其働賃ヲ献ラシムレハ大凡年ニ
毫千万金ノ財本相立右金ヲ以百事開興シ
テ國家之大裨益トナサン事ヲ進言仕候然
ルニ御一新以来至仁之御政體ニ復シ
玉ヘテヨリ追々御規則改リ従前固陋故ナ
クシテ下民ノ財ヲ集ル等之弊習ヲ断除セ
ラレ御冥加杯ト申名目ヲ廢シ玉フ事ヲ昨
今拜聴仕時勢ヲ弁サレ廉忽之取調書等建

言仕重墨恐縮至極ニ奉存候依之更ニ名称
ヲ替闔國一般同心協力シテ誠忠ヲ盡スノ
意ヲ以報天協力金ト相唱五箇年中四季各
一日之休日ヲ減シ其勸賃ヲ其社ニ備ヒ社
ヨリ貸出シ其利足ハ年利ヲ以テ一割ツ、
永世万倍金ト唱年々相返シ社ヨリ當今通
用ノ利ヲ以テ貸出シ其利益ヲ以テ社ノ財
本トシ然ル時ハ海内一般益奮発勉強シテ
報天之意ヲ與起シ餘力アル者皆其社ニ備
ヒ以テ國力充實スルニ至リ至急之

御用弁ハ勿論万物開業ノ基礎タルヘキナ
リ即今万機御多端就中其最大ナルモノ竊
ニ恐察スルニ内外四箇ノ綱目アリ一ニハ
海陸軍備ニハ北地開拓三ニハ窮民救助
四ニハ鐵道修造是ナリ然而北地開拓鐵道
修造此ニツノ事件餘外ノ者ニ似リト雖地
境開カシメサレハ彼ニ壓セラレ鐵道成ラ
サレハ八道運輸弁ナラス商法遲滞シテ彼
力往来自在ヲ得テ放ニ利ヲ締ルヲ傍觀ス
ルノミ故ニ各國並立ノ時ニ於ル此ニツノ

者ヨリ急ナルハナシ然リト雖海陸軍備ト
北地開拓ハ外政ノ主トスル蒙全國定格之
貢稅有餘ヲ以御所置アラセラル窮民救助
ト鐵道修造ハ内政ノ樞要ナレハ報天協力
金ヲ以是ニ充シムヘキナリ併ナカラ窮民
救助ノ如キハ從來御設ケ無シハ有ヘカラ
スシテ庸愚何ソ曾テ筆ヲ勞スルニ及ニ鐵
道修造ハ至急之大美事ニシテ其入費幾千
万金ト雖盡力セスレハアルヘカラス依之
卿黨豈豪農富商ナカラシヤ有餘ヲ以不足

ヲ補フハ天ノ道ナリ依テ報天社財奉先ツ
五箇年中ト定四季各一日ノ休日ヲ減シ其
勸賃ヲ相備ルニ至リテ極窮者或ハ廢疾者
等ハ敢テ備ルを得ス共富家ノ輩或ハ報天
有志之者ハ何ソ其定則ニ限ラシヤ幾百金
タリ凡其社ニ備ル時ハ永世無盡藏ニシテ
年々其利金ヲ項キ水火盜難ノ憂ナシ子孫
永昌之基是ヨリ幸福ナルハアルヘカラス
加之ナラス六ヶ年目ヨリ元金入用ノ節何
時タリ凡入金ハ速ニ元利ヲ添ヘ返却スヘ

シ殊ニ四海兄弟ノ貧民ヲ救助シ物産ヲ營
ナマシムル時ハ與フルニ増ノ益ヲ得飢民
乞食ナカラシメ万業相関ケ物産繁殖日々
ニ新ニシテ一月ハ一月ヨリ多ク一年ハ一
年ヨリ盛ニシテ海内ニ充満シ然シテ万国ト
和親交易スル時ハ國家ノ裨益富國安民ノ策
是ヨリ大ナルハナカルヘシ今ヤ日新開化
ノ時勢ニ至リ鐵道修造ノ大事件ナルモノ
其大意ヲ勘考スルニ其便理有益アル事云
ヘカラス譬ハ人ニ羽翼ヲ添重荷ヲ負セ千

里ノ道ヲシテ往來自由ナラシメ且海上運
輸ノ船ト異リ聊モ品物ノ亡失ナク其利益
何レ力之ニ如ンヤ殊ニ其迅速ナル莫矢ノ
如クニシテ一晝夜ニ三百里ノ自由ヲ為ス
ト云實ニ無比ノ良法ト謂ツヘシ此大業開
クル時ハ天地開闢以來其國其土地ニ據リ
運轉不便理ナル力故ニ名器及ヒ万種ノ産
物等充満スルト雖モ運賃多ニシテ商法ニ
引合サルヲ以其儘空敷朽埋リ土芥ノ如ク
ニノ世用ニ充ル能ワサル者筆紙ニ盡シ力

タシ国内大二鉄路開ル時ハ彼棄物世ニ祭
行スルニ至リナハ譬ヘハ黄泉ノ凶人再来
シテ物産ヲ開キ無用ノ長物却テ有用トナ
リ国家ニ裨益スル力如シ故ニ此変情ヲ篤
ト説諭致シナハ万民一同蘇生ノ思ヲ成シ
歡喜踊躍シテ文明開化ノ佳域ニ進歩シ奮
発勉強シ以テ報天協力之志ヲ振起シ年ナラ
スシテ鐵道修造成就ナラセスハ有ヘカラ
スト一同感泣シテ御一新ノ遅カリシヲ歎
カサル者有ヘカラス然シテ其協力金ヲ其

社ニ備ヘ其財奉ラ以テ便理ノ地ヨリ速ニ
鉄道修造ナラシメハ其運賃モ國益盛大タ
ルヘシ左候ヘハ兼テ財奉調書之通平均毫
戸五人ト積リ一日ノ働ニテ男子貳人分ト
積リ四季一日ツハニテ毫筒年八人也毫人
一日働賃金貳朱ト積一户ニ付金毫圓也惣
戸數一千万戸ト見時ハ一筒年金毫千万圓
ニシテ五筒年ニテ五千万金一户ニテ五圓
ツハ也六筒年目ヨリ一割利息一户分金貳
方ニシテ都合五百万ツハ永世年々海内ノ

備金ト致シ則其金ヲ村町戸長或ハ地廳関
係ニテ平倉法ヲ設ル時ハ凶歳ノ救助ト相
成往々飢渴ノ憂アルヘカラス僅四季各一
日之休日ト雖五箇年間ニシテ莫太ノ財本
ヲ基立シ且永世國家不虞ノ備ニ至ルモ是
偏ニ

皇政御一新之盛徳ニ依頼スル所ニシテ片
時モ怠タルヘカラス愚農草莽布衣頑陋ナレ
厄八度ノ周流二十餘年間千辛万苦ヲ累疊
シ建言數回ニ及ト雖モ未夕微志貫徹スル

ヲ得ス恐多クモ今般亦々建言仕候若
御採用無之二於テハ徒ニ奉煩

電覽罪輕カラサルノミナラス積年之志願
終ニ空ヲシテ老死スル時ハ眼ヲ地下ニ瞑
スルヲ得ス仰願ハ出格ノ

御英斷ヲ以御採用ノ有無速ニ奉蒙度昧死
渴望血淚奉懇願候誠惶誠恐頓首百拜謹言

秋田縣管下元龜田縣農民

明治五年 壬申七月

岡田明義



大藏

七拾五

奉建白書

廿
七拾五